

## 2000年市勢要覧 前文

「人と人、人と自然」「歴史と今、今と未来」が調和しながら、豊かなくらしを奏でるまち人はみな誰も、豊かにくらしたいと願っています。そしてその「豊かさ」のイメージは、時代に合わせて変化しています。かつては、立派な施設やたくさんモノに囲まれていることが、「豊かさ」だった時代がありました。

しかし、21世紀を迎えた今、私たちはそうしたモノの充足と同時に、自然や生活の環境、積み重ねてきた伝統文化・歴史といったものをゆるがせにせず大切に守り伝え、共生していかなければなりません。

奏者一人ひとりの奏でる音が調和し、美しい交響楽となるように市民一人ひとりが手を取りあい、ともにめざしましょう。水、緑、夢あふれる私たちの泉南市を。

私たちのまちづくりにとって大切なものは何でしょうか？

きっと、いろいろな考え方があり、人それぞれの答えがあるでしょう。しかし、人間が成長するために、人生で経験することにムダなことはひとつもないと言われるように、その答えのどれもがまちの成長にとって大切なエネルギー。

ここでは、「人」「自然」「歴史」「世界」という大きく4つのキーワードで泉南市を表現してみました。人と響きあうまち。自然と響きあうまち。歴史と響きあうまち。そして、世界と響きあうまちへ。“せんなんらしさ”を大切にしながら、いつも前向きに歩むまち、それが私たちの泉南市です。

「人」

泉南市には今日（平成12年末現在）約六万五千人の市民が住んでいます。市内で働く人もいれば、すくすく育つ子どもたちもいる。車椅子の人や目の見えない人もいる。そんな市民の暮らしの向上のため、一人一人が輝くまちづくりのために、福祉や教育、市民のコミュニティから人権啓発にいたるまで、前向きに取り組んでいかなければなりません。人がいて、人と交流するところから初めて何か生まれます。あなたが主人公になるまち、せんなん。

「自然」

自然の保護、環境問題への意識が、世界レベルで高まっています。泉南市でも、府内でも指折りの貴重な自然を残すまちとして、責任をもって自然を守ろうという動きが高まっています。しかし、“自然を守る”とは、ただ保護すればよい、伐採や開発を禁じればよいというものではありません。人は自然の恵みを受けたり、自然災害などの脅威から身を守ったり、自然とともに調和していくもの。開発工事にしても、できるだけ環境に配慮した新しい手法を取り入れるなど、共生の視点を大切にしたい町づくりをめざしています。

「歴史」

新家の住宅地に、ひっそりと立つ石碑があります。そこにかつて古墳群があったことを語る石碑です。現代人の暮らしと古代人の暮らしの名残が、時空を超えて同居するまち、それが泉南。この新家だけでなく、泉南市には多くの古墳群が点在し、石器や銅鐸などが出土しています。

その歴史ははるか縄文、弥生時代にまで逆上ることができます。集落はますます発展を続け、人はますます集い、文化が育まれ、そして今がある。これまでも、これからも受け継ぎたい歴史があります。

#### 「世界」

関西国際空港の敷地の1/3は、泉南市の市域。泉南市は「国際空港のあるまち」として、国際化に取り組んでいます。その活動には、施設の充実や語学教育の向上といったことも含まれますが、もっとも大切なのは、異なる文化や思想を互いに認め合う心の持ち方でしょう。現在、平成17年の完成をめざして、関西国際空港の第二期工事が順調に進んでいます（平成12年末現在）。ますます加速する人、モノ、情報の国際交流に合わせて、21世紀の泉南市も変化してゆくことでしょう。